

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、知・徳・体のバランスがとれ、豊かな人間性と心身のたくましさを備えた生徒、さらには、高い志とチャレンジ精神によって自らの進路を切り開き、高邁な理想をもって社会に貢献する生徒を育成する。また、グローバル化が急速に進む中で、社会の課題に関心を持ち、国際社会のリーダーたるにふさわしい人材の育成をめざし、次の能力や態度を育む。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・高度なコミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

さらに、Society5.0において求められる力についても視野に入れて取り組む。

① 文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』が輝く学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立するとともに、授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～

教員の専門的知識及び教育スキルの向上を図るため、さらなる授業改善を進める。授業においては言語活動を重視するとともに、ICTをより効果的に活用できるよう取り組む。学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現と観点別学習状況の評価の一層の定着を図る。

- ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。 イ 教員の専門的知識を研鑽する機会の充実を図る。
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員と日常的によく話し合っている」の肯定的評価が令和4年度実績で90%以上（H29 85.7%, H30 83.8%, R1 91.1%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が令和4年度実績で85%以上を維持（H29 80.9%, H30 90.1%, R1 92.2%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が令和4年度実績で95%以上を維持（H29 96.1%, H30 96.8%, R1 96.1%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が令和4年度実績で90%以上（H29 82.8%, H30 87.8%, R1 90.3%）

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

- ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、合わせて適切なアドバイス等を行う。 イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。
- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を令和4年度実績で50%以上（H29 46.5%, H30 48.4%, R1 51.8%）、
 - 「3時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上（H29 25.2%, H30 25.7%, R1 36.2%）
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」と回答する生徒の割合を令和4年度実績で38%以上（H29 40.4%, H30 31.4%, R1 38.9%）、
 - 「5時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上（H29 28.6%, H30 23.7%, R1 29.1%）
 - ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を令和4年度実績で各々95%以上を維持する。（①H29 87.3%, H30 86.2%, R1 95.5%、②H29 99.0%, H30 100%, R1 99.0%、③H29 95.5%, H30 97.3%, R1 97.0%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を令和4年度で90%以上を維持（H29 88.9%, H30 92.8%, R1 93.6%）
 - ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が令和4年度実績で45%以上（H29 44.2%, H30 34.6%, R1 41.2%）

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

将来社会に貢献する、知・徳・体のバランスの取れたリーダーとならねばならない。本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

- ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。
- イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が令和4年度実績で90%以上（H29 89.6%, H30 90.9%, R1 90.1%）
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が令和4年度実績で92%以上を維持（H29 94.9%, H30 94.5%, R1 89.7%）
 - ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、令和4年度に前年実績を維持（H29 45人9団体, H30 48人11団体, R1 37人3団体）

(2) 人権教育・教育相談の充実

- ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切にし、他者を大切にし、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。
- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が令和4年度実績で80%以上を維持（H29 79.4%, H30 83.4%, R1 89.8%）
 - 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が令和4年度実績で60%以上（H29 50.4%, H30 59.6%, R1 65.7%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が令和4年度実績で75%以上（H29 58.8%, H30 72.3%, R1 74.4%）。
 - ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が令和4年度実績で80%以上（H29 62.5%, H30 66.1%, R1 78.6%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携、また WWL (World Wide Learning) の取組の充実を図る。英語の4技能をバランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

- ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が令和4年度実績で90%以上を維持（H29 76.0%, H30 90.7%, R1 92.1%）。

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

- ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。
- イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が令和4年度実績で80%以上を維持（H29 69.9%, H30 78.1%, R1 81.9%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の令和4年度実績が65%以上（H29 61.0%, H30 62.0%, R1 66.3%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が令和4年度実績で80%以上（H29 66.0%, H30 73.0%, R1 76.3%）
- 以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が令和4年度実績で90%以上（H29 88.9%, H30 87.8%, R1 90.2%）

4 校内課題解決に向けて

(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成

1 (1)に掲げた授業改善を主テーマとした校内研修、首席、指導教諭を中心とした初任期教員（1～概ね3年目）に対する力量形成支援、教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等の校内への成果還元等を通して、教職員同士が学び合う機会を多く創出するとともに、教職員の力量形成を図る。

(2) 「知」の継承・発展

- ア 現在の教職員がいつまでも本校に在籍するわけではないことを前提に、これまで蓄積されてきた「経験知」を次世代に計画的に継承する仕組みと仕掛けについて研究する。
- イ 高校教育、大学教育、入学者選抜の一体的改革の動向と今次の学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、北野高校独自のAP（アドミッション・ポリシー）、CP（カリキュラム・ポリシー）、DP（ディプロマ・ポリシー）を定め、その上で、「入口（入学）から出口（卒業、進学）まで、そして未来（キャリア）へ」と一貫した北野生の「育成スタンダード」の策定をめざす。

(3) 「部活動休養日（ノークラブデー）の有効活用

平成H30からの部活動休養日（ノークラブデー）の設定を、文武両道を真に実現する絶好機と捉え、制度を安定的に定着させつつ、学習時間の増加につなげる。休養日の使い方を部活単位で生徒に考えさせ、主体的・計画的な学習を計画実践させる。

(4) 学習環境のさらなる充実

- ア 生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。
- 生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立し、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組めるよう、機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でのいじめやトラブル未然防止のため、情報リテラシーの育成にも取り組む。また、生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高める。さらに、防災教育の取組を引き続き進める。
- イ 北野生の「凄さ」が「輝く」授業・事業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新の計画的な実施を検討する。

5 働き方改革

教員が専門的知識及び教育スキルを高めるため、また生徒と向き合う時間を確保するため、業務の見直しを行い、時間外労働の縮減に取り組む。教員が自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じる職場の雰囲気づくりを心がける。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>◎「高い学力の育成」に関する項目カッコ内の数字は肯定的評価（H30年度→令和元年度→R2年度）（％）</p> <p>○結果 （生徒）授業は興味深く満足できるものである。（87.8→90.3→93.0） 授業の難易度、進度は適切である。（難易度88.7→91.8→90.4、進捗87.1→89.6→87.2） 教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い。（90.1→92.2→93.3） 学習の評価は適切に行われている。（91.1→92.4→95.8） （保護者）学校が行う成績評価は適切である。（62.6→70.6→73.3） （教職員）各教科において、授業、指導方法の研究や教材の工夫を日常的に行っている。（93.6→96.4→91.0）</p> <p>○分析と今後 ・学習指導に関する生徒の肯定的回答が総じて増加し引き続き高い水準となった。学校休業期間があったものの、生徒たちは学校の授業を信じて受けていることの証。PC一人一台も念頭に、今後もアカデミックな授業づくりに目標高く取り組みたい。 ・各教科で授業、指導方法の研究や教材の工夫を日常的に行っている状況は望ましく、今後も定例教科会議や公開授業、授業参観の充実、観点別評価とその方法の研究等に取り組む。 ・成績評価、とりわけ観点別評価に関する保護者の理解も進んできた。知識量だけでなく、思考力・判断力・表現力や学習に向かう主体性等を多面的、総合的に評価する方針を今後も継続し、研究を続けていく。</p> <p>◎「豊かな人間性と心身のたくましさの育成」に関する項目</p> <p>○結果 （生徒）北野高校では、他の学校にない特色ある教育活動が行われている。（88.8→91.1→92.7） 文化・体育行事に楽しく参加している。（文93.0→93.6→93.6、体88.7→86.5→86.7） HRや講演会などで将来の進路や生き方について考える機会がある。（92.7→96.5→95.6） 悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。（83.4→89.8→89.6） 人権の大切さについて学ぶ機会が多い。（72.3→74.4→90.8） 命の大切さや社会のルールやモラルについて学ぶ機会がよくある。（73.3→78.1→86.7） （教職員）本校では、他の学校にない特色ある教育活動が行われている。（85.7→91.1→85.8）</p> <p>○分析と今後 ・中止になったものもあったが、依然学校行事、ホームルーム活動への満足度が高く、生徒が総体として充実した毎日を送っていることがうかがえる。将来の進路や生き方について考える機会や、悩みや相談に親身になって応じてくれる先生の存在についての肯定的回答もますます。 ・人権の大切さ、命の大切さや社会のルールやモラルを学ぶ機会については、スコアが大きくなっている。それぞれが新型コロナ、医療や社会の在り方等真摯に考えた結果ではないか。北野生の使命として、将来は必ずそれぞれの分野において、リーダーとして社会貢献が求められる。豊かな人間性、社会性を育てるためにも、ホームルームでの講演、講話だけでなく、授業、行事や部活等、日常的な場面でそれらを意識させる機会が増えるよう努めていく。</p> <p>◎「次代のグローバル・リーダーの育成」に関する項目</p> <p>○結果 （生徒）授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある。（90.7→92.1→96.0） 国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある。（78.1→81.9→86.1） 国際的な社会課題や政治の動きに関心がある。（73.0→76.3→77.5） 何事にも自主的、主体的に取り組むように努めている。（83.5→86.3→85.4）</p> <p>○分析と今後 ・一昨年度来、生徒が自ら考え発表する機会を授業の中でいかに充実させていくか、各教科・科目で研究を続けている。その成果が「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある」の好スコアに繋がっている、と考えている。 ・今年度はコロナの影響で中止の事業が多かったが、WWLの課題研究や各種講演会、学内留学、海外スタディーツアー、国際交流事業、留学生長期受け入れ、ボランティアや地域貢献活動等への主体的な参加が、意識の高揚や参画意識、将来を見据えた具体的なアクションにまで繋がっていくよう取組の深化を図りたい、と考えている。</p> <p>◎その他の項目</p> <p>○自然災害への対応 ・（生徒）学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのような行動をとればよいか、具体的に知らされている。（84.7→85.9→80.8） ・（保護者）子どもは、地震や台風のなどの場合にどのように行動すればよいか、学校から知らされている。（65.5→67.9→67.9）</p> <p>保護者回答の肯定率について、昨年度は29項目中24項目上昇したが、今年度は29項目中14項目が引き続き上昇した。コロナ下での制限された教育活動であったが、学校の教育方針や教育内容に対し、おおむね理解いただいたものと考え。大きく下がったのは、コロナ下で制限された懇談など学校に出向く機会、学校行事への参加、PTA活動の参加、であった）より一層の理解と協力を得られるよう、学校と家庭を有機的に繋ぐ仕掛けを考えていきたい。</p>	<p>第1回 学校運営協議会（7月31日・書面による開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○臨時休業期間について <ul style="list-style-type: none"> ・学習の遅れが気になる。 ・全体的に生徒・保護者への連絡や学校の方針などの生徒・保護者への説明が不十分であったと思う。 ・HPでの校長メッセージなど有り難かったが、（学校と生徒が）「つながっている」ことを実感できる場面がもう少しあればよかった。 ○高い学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・先生方のご苦労がよくわかった。生徒たちが突然の新たな日常に良く対応しているのも、先生方のご努力の賜だと思う。 ・今後いつまたオンラインに頼らざるを得ないような事態が発生するかもしれないので、今回の記録・蓄積を残すことは大切。 ・高い学力の育成には、先生方が高い学力を持っておられることが何よりも大事。その意味で、先生方が自分を肥やされる時間をどれだけとれるかと言うことは大きなポイント。 ○豊かな人間性とたくましさの育成 <ul style="list-style-type: none"> 人権に関しては、世界史や人文の時間のテーマかもしれないが、コロナ後の世界で、戦後20世紀後半に培われてきた色々な価値観が壊れようとしていることなども真剣に未来に向けて考えておく必要があるかもしれない。 ○次代のグローバル・リーダーの育成 <ul style="list-style-type: none"> 国際舞台で堂々と主張を述べられる力（プレゼンテーション力と主張内容への自信）を養うために、対外的な行事に参加する機会を、教育基金やWWL資金をうまく使って増やして頂きたい。 <p>第2回 学校運営協議会（11月15日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○WWLのテーマが「健康・医療」「幸福」に関することであり、課題研究もそれをテーマにしたものが多かった。今までに比べ目的がはっきりしており、生徒の意欲も感じた。発表に関しては、一番強調したいところとそうでないところのコントラストを出す点もよい。コロナ禍にも関わらず、教員がフォローしつつ、生徒もそれにしっかりついていき、いつも通りの機能に戻りつつある。 ○大学は実験などを除いて、対面授業がないので生徒が教室に集まって授業を受けている風景は新鮮に感じた。学生の中には対面授業よりも遠隔授業のほうが良いと感じている者もいる。例えば、国際会議やインターンなどがオンラインで行われるようになり、気軽に海外と交流できるようになった。このような状況を逆手に取って海外との交流を増やしていけるとよい。 ○課題研究に関しては、日常で抱いた疑問に対して様々なテーマを設定して、課題解決に向けて取り組むことができている。生徒が設定した目標に対して、教師がどのようにアプローチできるか。自校では生徒指導の徹底や、クラブ活動の活性化を行うことで目的意識を持てるような学力の育成を目指している。 ○保護者の視点で生徒の様子を観察した。調べ学習の際にスマートフォンを利用している生徒が多く見受けられた。インターネットからの情報のみで正しい情報を選ぶことができているのかは不安である。図書館にある書物から、自分の得たい知識を得る大切さも学んでほしい。 <p>第3回 学校運営協議会（2月20日・書面による開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これだけ能力の高い学生たちが集まった場で、十分な満足度を学生たちに与えるための先生方の努力は大変なものに違いない。教科の先生方の数を増やして時間的負担を減らし、先生方が少しゆったり専門性を高めたり、広い意味での教育について考えたりされる時間を増やすしか方法がないように思われる。課題研究などでは、卒業生や外部の力をもっと借りる算段をして、先生方の負担を減らす努力ができないものであろうか。 ○生徒たちの高校生活と勉強に対する肯定感はとても大きい。先生方の努力の賜物である。 ○これらの目標を達成するための個々の先生方の研究・工夫・生徒との対話の努力は一般の高等学校では考えられないくらい大きいと思われる。優秀な能力を持った生徒たちを満足させ、勉強意欲を高めるのは並大抵のことではない。そのため、低学力の生徒への対応や勉強以外の教育活動の悩みを先生方で話し合う時間を作ることがたいそう難しいと想像できる。おそらく寝る時間をも削って頑張ってくださいしている先生方には、感謝あるのみである。 ○今後もコロナの収束が簡単には見込まれない状況の中で、様々な不測事態による予定変更等があると思いますが、今年度培われた実績をもとに、次年度も北野高校としてぶれない教育方針で学校運営に臨まれることを期待しています。 ○今年度は、コロナ対応で各種行事が通常通りで行えなかったなどの制約が多かった。来年度も、今年度と同様の状況となることが予想される。一方、各種のミーティングを遠隔で実施する機会も多かった。遠隔でのミーティングは、場所と時間に制約されることなく実施できるという利点がある。例えば、海外高との連携も、海外渡航することなく遠隔で実施できる可能性がある。このような環境を積極的に利用する活動についても検討する価値があると思う。 ○保護者側からのお願いとしては、もう少し学校からの発信が多ければ有難く思います。何も話さない時期の子どもに対し、大学受験・学校生活のことをもう少し知っておきたいと思う場面が多いです。 ○令和3年度学校経営計画については全員が承認。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～</p> <p>ア 教職員の授業スキルの向上</p> <p>イ 研鑽機会の充実</p> <p>(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>ア 自学自習の推進</p> <p>イ キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での授業公開週間を例年通り2回実施 公開研究授業の実施 他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 校内の教員相互の授業見学を実施。 授業、評価等に係る教員研修の開催 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 研修等への参加者と他の教員との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高める努力をさらに進める。 自学自習の推進方策についての検討を深める。(主体的な学習習慣の定着、学習の質量両面での充実) 図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施 進路目標の早期設定に向けた取組の充実 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を実施した教員の割合 98%以上 (R1 97%)。 学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が92%以上 (R1 91.1%)。 教職員自己診断「評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が78%以上 (R1 76.7%)。 学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が92%以上を維持 (R1 92.2%)。 生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価95%以上を維持 (R1 96.1%)。 生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が90%以上 (R1 90.3%)。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」を52%以上 (R1 実績51.8%)、「3時間以上」を38%以上 (R1 36.2%)。 生活アンケートの「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」を40%以上 (R1 38.9%)、「5時間以上」を同30%以上 (R1 29.1%)。 図書館の働きかけを通して、貸出冊数 (R1 3696冊) や授業での使用が増えるかどうか、データを取って検証する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」、「職業ガイダンス」、「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価95%以上を維持 (R1は95.5%、99.0%、97.0%)。 生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が90%以上を維持 (R1 93.6%)。 進路希望現役実現率を42%以上 (R1 41.2%) とする。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施割合98.3% (○) それぞれ、87.5%、73.2%と目標には達せず。すでに一定のコンセンサスが取れている点とオンライン学習対応に時間がとられたためだが、授業の質確保には問題なし。評価については観点別評価が定着してきたためだろう。(△) 教員の教え方について、生徒は高評価。93.3% (○) 教員のICT利用についても高評価96.1% (○) 授業満足度が予想以上に高く、教員の頑張りが表れている。93.0% (○) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 2時間以上48.7%、3時間以上30.5%特に平日3時間以上自主学習する生徒数がかかり減っている。(△) 休日についてのアンケートの質問をより詳細にした。「4時間以上学習：部活動がない時50.0%、ある時12.3%」「5時間以上学習：部活動がない時39.6%、ある時7.5%」部活動が休みの日をどう有効に使うかが今後の課題。(△) 貸出総数3128冊 休業期間を考えると増加傾向。(○) (2) イ それぞれ100%、100%、99.0% (◎) 92.7% (○) 特に共通テ関連は精力的に提供。 45.5% (○)
2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	<p>(1) 学校行事・部活動・課外活動</p> <p>ア 学校行事や部活動</p> <p>イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実</p> <p>ア 人権基礎教育推進</p> <p>イ 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事が生徒にとってより魅力的なものになるように不断の改善を図る。 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校における人権教育の体系化を図る。 教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況についての共有化を一層図る。 SCとの連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が90%以上を維持 (R1 90.1%)。 生活アンケート(生徒向け)における「部・同好会加入率」90%以上を維持 (R1 89.7%) 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数がR1実績を維持 (R1 37人3団体)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が90%以上を維持 (R1 89.8%)、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が65%以上 (同65.7%)。 生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が75%以上 (R1 74.4%)。 教職員自己診断「すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が80%以上 (R1 78.6%)。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 93.6(86.7)%と、予定通りに実施できなかったが生徒は楽しんでくれたようだ。(○) 92.4%と、特に1年生は臨時休業に関係なく高い加入率。(○) 18人コロナによる大会中止などにより判定できず。[一] <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれ89.6%、71.6%と高い。特にコロナによる生徒の不安等に対する教職員・SCの意識と行動の結果であり、評価できる。(○) 90.8%と、この項目が昨年比16.4ポイント向上した。コロナ差別や医療従事者への偏見などについても生徒自ら考え正しい判断力を身に着けた。(◎) 73.2%と下がった。安全安心な学校であるために検証の必要あり。(△)
3 次代のグローバルの	<p>(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>ア 議論できる力等の育成</p> <p>(2) 海外の機関や大学との連携</p> <p>ア 高大連携</p> <p>イ 海外との連携</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、英語を含めて、ディベート(即興型)やプレゼンテーション等の学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する機会を充実させる。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、地域の資源やWWL事業も活用するとともに高大連携をさらに進め、課題研究における生徒支援をさらに進める。 <p>(2) イ</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が90%以上を維持 (R1 92.1%)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員自己診断「本校は、外部(保護者、地域、大学、教育産業等)との連携・協力的に積極的に取り組んでいる。」の肯定的評価が80%以上 (R1 80.4%)。 生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が78%以上を維持 (R1 81.9%)。 生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 96.0%と高い。多くの科目でグループワークやプレゼン等、自分の考えを論理的に述べる機会が増え、授業改善がさらに進んだ。(○) <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 77.6% 今年コロナによる制限が強く、連携を進めることが難しかったが、オンラインで代替できた (○) 86.1% 海外研修はできなかった分、教科やWWL推進室が国際理解について様々な学びの場を提供した。(○) 56.7% 海外研修は4研修全て実施できず。代替としてグローバル・リーダー養成

育成		<ul style="list-style-type: none"> ・海外の大学や高校との連携をさらに進め、また長期留学生を受け入れることで、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。 	<p>語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の肯定的評価が 68%以上 (R1 66.3%)。</p>	<p>講座を実施。留学生2名が11月～3月在校。コロナによる不可抗力の中止のため判定できず。[—]</p>
4 校内課題の解決に向けて	<p>(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成</p> <p>(2) 「知」の継承・発展 ア 「経験知」の継承</p> <p>イ 「経験知」の活用 北野生「育成スタンダード」(仮称)策定にむけて</p> <p>(3) 部活動休養日の有効活用</p> <p>(4) 学習環境のさらなる充実 ア 指導部、保健体育部、道徳教育推進教師、部活動総顧問の働きかけ</p> <p>イ 予算の効果的執行等</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 (1) ア・イ再掲 ・初任期教員(1～概ね3年目の教員)に対する力量形成支援を管理職、首席がチームで行う。 ・教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナーや、大教大での研修等に参加する教員が研修成果の校内還元を行う。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓄積された「経験知」の次世代継承に向け、昨年度に引き続き、各分掌、学年、教科、委員会業務の円滑な推進 <p>(2) イ</p> <p>「育成スタンダード」(仮称)の策定に向け、新学習指導要領改訂を踏まえたカリキュラムマネジメントを確定、共有し、これをもとにこれからの北野生に身に付けさせたい学力と、そのために必要な3年間の流れについて議論を深める。</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成R1末に策定した「北野高等学校 部活動に係る活動方針」が適正に運用されているかどうか検証を続ける。 <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通してみな清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。 ・道徳教育推進教師の位置づけをこれまでから本校で大切にしてきた自主自律の精神の涵養に資するよう取り組む。 <p>(4) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業第一主義」支える予算の効果的執行 ・教材機器・設備の更新、プール、部室棟、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 	<p>(1)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任期教員に対する力量形成支援のプログラムを計画的に行う。 ・教育C研修等参加教員による成果発表を職員会議、学校掲示板等で行う。 ・教職員自己診断「本校では、研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている。」の肯定的評価65%をめざす。(R1 60.7%) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌・教科において引継ぎの方法を明確にする。特に、「特定の教員しかできない」業務を最小にする。 ・教職員自己診断「各分掌・学年・教科・委員会等において、業務分担や役割分担が明確で適切である」の肯定的評価60%(R1 50%) <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂をテーマとした教職員研修を1回以上設定する。 ・将来構想WTにて新学習指導要領研究とそれを踏まえた教育課程策定に力を注ぐ。議論を重ね、北野の「新たな10年」に向け、英知を傾けたい。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に部活動休養日の定着度及び活用の状況を部活ごとに取りまとめ、確認する。 ・1 (2) ア再掲 生活アンケートの「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」を40%以上 (R1 38.9%)、「5時間以上」を同30%以上 (R1 29.1%)。 <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動や委員会への活動支援が現に生徒に自主自律の精神を涵養し、生徒の望ましい主体的行動を促しているかどうかを検証する方策を具体的に講じる。学校の品格は自分たちで築き自分たちで守るもの。 ・生徒自己診断「学校の清掃美化にしっかり取り組んでいる」90%目標。(R1 89.3%) <p>(4) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校会計事務の適正な遂行のもと、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、生徒のためよりよい教育活動に向けた創造的提案を行う。 ・保護者自己診断「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」60%以上目標。(R1 59.1%) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首席が中心となり指導教員も巻き込み初任者を計画的に指導した。初任者の授業に対して管理職から指導助言。(○) ・職会で報告。ただ、例年ほど活発にはできず。(△) ・43.1% 今年研修もオンライン中心で回数も減。さらに校外の研究の機会はほとんどなかった。職会も時間短縮のため報告の時間が取れなかった。(△) <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に教務部においてまだ解消できていない。(△) ・62.1% 担任については所属分掌を相談する機会を与えたことが評価向上につながった。(○) <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の形は取れなかったが、新カリに向けたカリキュラムマネジメントの考え方を職員会議で伝達。(○) ・将来構想WT、教科主任会、運営委員会での議論を経て、北野の新たな新教育課程を策定した。(○) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部の活動状況を報告書にて確認。(○) ・(再掲)「4時間以上学習：部活動がない時50.0%、ある時12.3%」「5時間以上学習：部活動がない時39.6%、ある時7.5%」部活があっても時間確保をできる姿勢づくり(△) <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒保健委員会が中心となり、コロナ感染防止の雰囲気づくりを行った。生徒自治会は文化祭の代替行事を自分たちで企画・運営した。(○) ・92.2%(○) コロナ感染防止の意識が表れている。 <p>(4) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の提言により、3年教室プロジェクト取り換え、全教室カーテンならびに黒板交換など、事務室もがんばり教育環境の整備が特に進んだ。(○) ・61.0%(○) 環境改善に一定の理解をいただけた。
5 働き方改革	<p>業務の見直し 会議の精選 北野での働きがい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内組織の見直しに着手 ・会議の回数、時間の見直し ・同僚性の高い職場の雰囲気づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日々の教育活動における問題意識や悩みを教職員間で気軽に相談しあえる。」80%以上をめざす。(R1 75%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・69.0%(△) 多忙化の意識が強く、何気ない会話の時間が減っているのが気がかり。職員会議は回数、時間とも短縮できている。